2022年10月期 決算説明会

2022年12月23日

クミアイ化学工業株式会社

本日のアジェンダ

Ⅰ．事業環境

Ⅱ．2022年10月期 実績

Ⅲ．2023年10月期 業績予想

Ⅳ．重点施策の実施状況

Ⅴ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅵ．質疑応答

事業環境動向と当社への影響

ロシア・ウクライナ紛争の長期化

直接的な取引は少ないため当社事業への影響は限定的であるものの
原材料費や製造コストが増加
コムギ等の生産地であるため世界の穀物価格や作付状況への影響を注視

対ドル円安進行

調達価格等の増加要因となったが、コスト増以上に売上を押し上げ
2022年度は外貨建資産の評価等による大幅な為替差益を計上

穀物市況

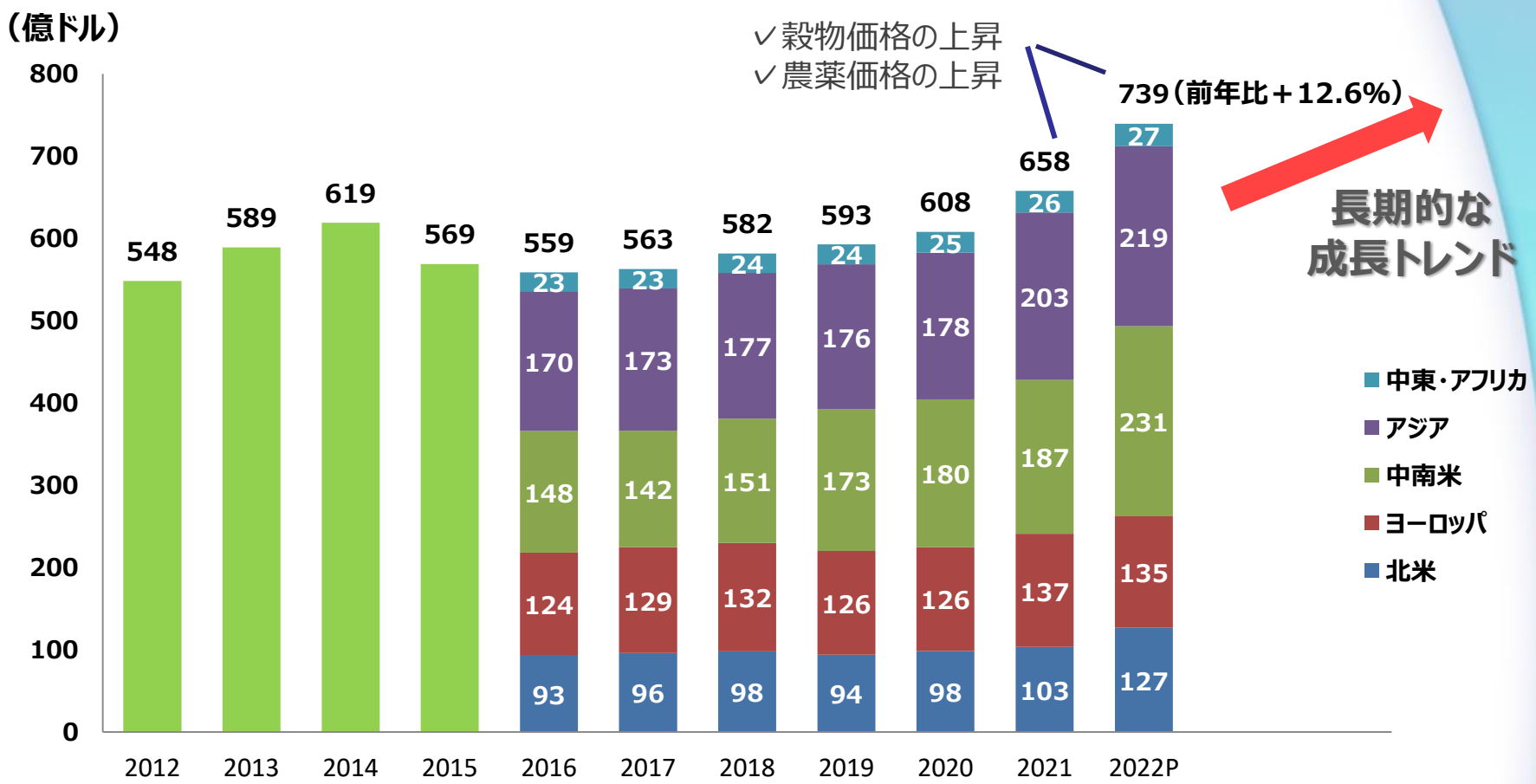
世界人口の増加やコロナ禍等、複合的な要因を背景に2020年頃から上昇傾向
それに伴い、農薬市場も拡大しており、継続的に成長する見込み

新型コロナウイルス

化成品事業では長引いていたコロナ禍のマイナス影響から本格的に回復

農薬市場の動向

✓2022年は穀物価格・農薬価格の上昇により過去約20年で最も高い成長率
✓国内は3,400億円前後の横ばいで推移



出典：Agbioinvestor（世界市場）、農薬工業会（国内市場）

Ⅰ．事業環境

Ⅱ．2022年10月期 実績

Ⅲ．2023年10月期 業績予想

Ⅳ．重点施策の実施状況

Ⅴ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅵ．質疑応答

2022年10月期 実績

（億円）	2021 実績	2022 実績	前年比	2022 業績予想※2	予想比	要因
売上高	1,182	**1,453**	+271	1,400	+53	(＋)農薬主要剤の増収 (＋)化成品事業のコロナ禍からの回復 (＋)為替影響
営業利益	85	**127**	+42	125	+2	(＋)販売数量増 (－)原材料費の高騰 (－)製造コストの増加
経常利益	128	**236**	+107	164	+72	(＋)外貨建資産の評価による 為替差益
当期純利益*1	90	**163**	+73	115	+48	－

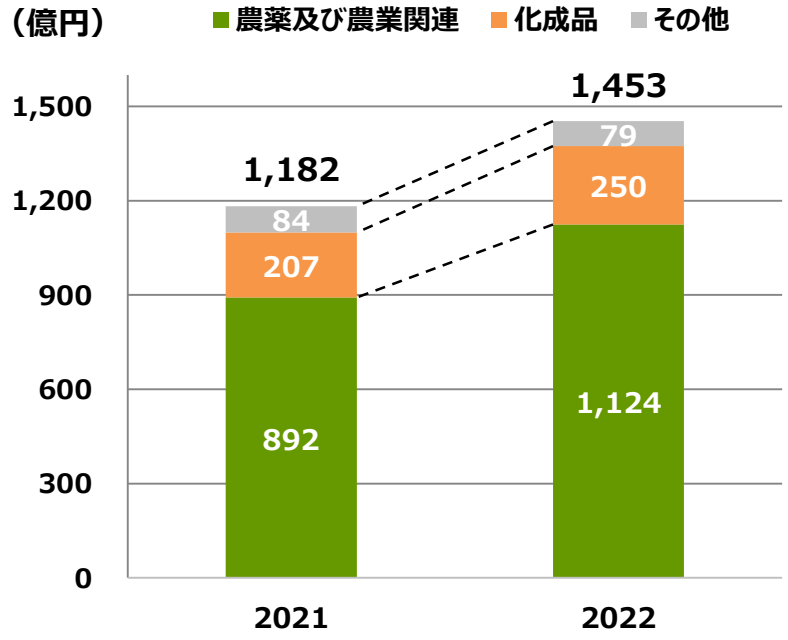
(参考レート)　2021年度実績：¥/ドル=108.3、¥/ユーロ=128.3
2022年度実績：¥/ドル=129.0、¥/ユーロ=135.3

*1親会社株主に帰属する当期純利益
*2 2022年6月7日に業績予想の上方修正を開示

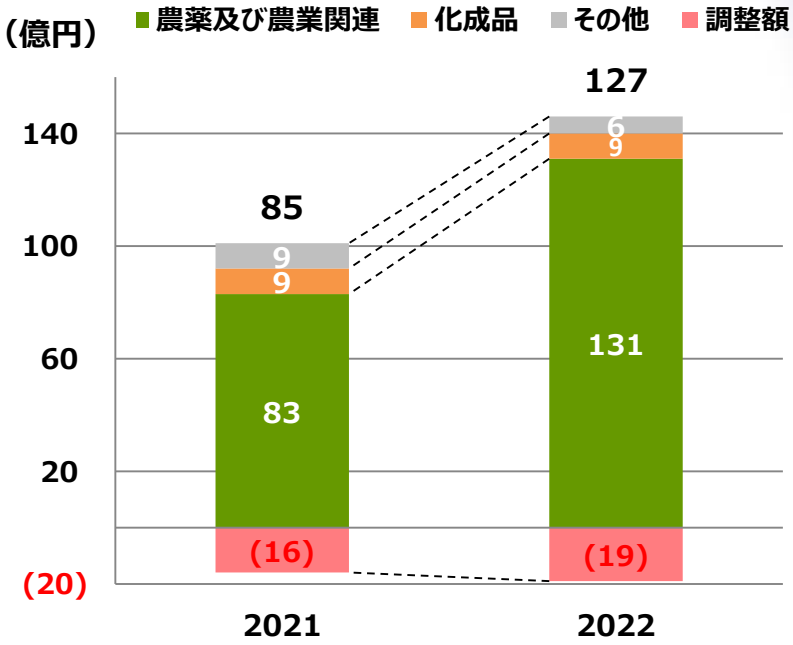
セグメント別売上高及び営業利益

- ✓ アクシーブの大幅増収およびエフィーダ・ディザルタの成長
- ✓ 化成品事業がコロナ禍影響から回復したものの原材料費が高騰

連結売上高

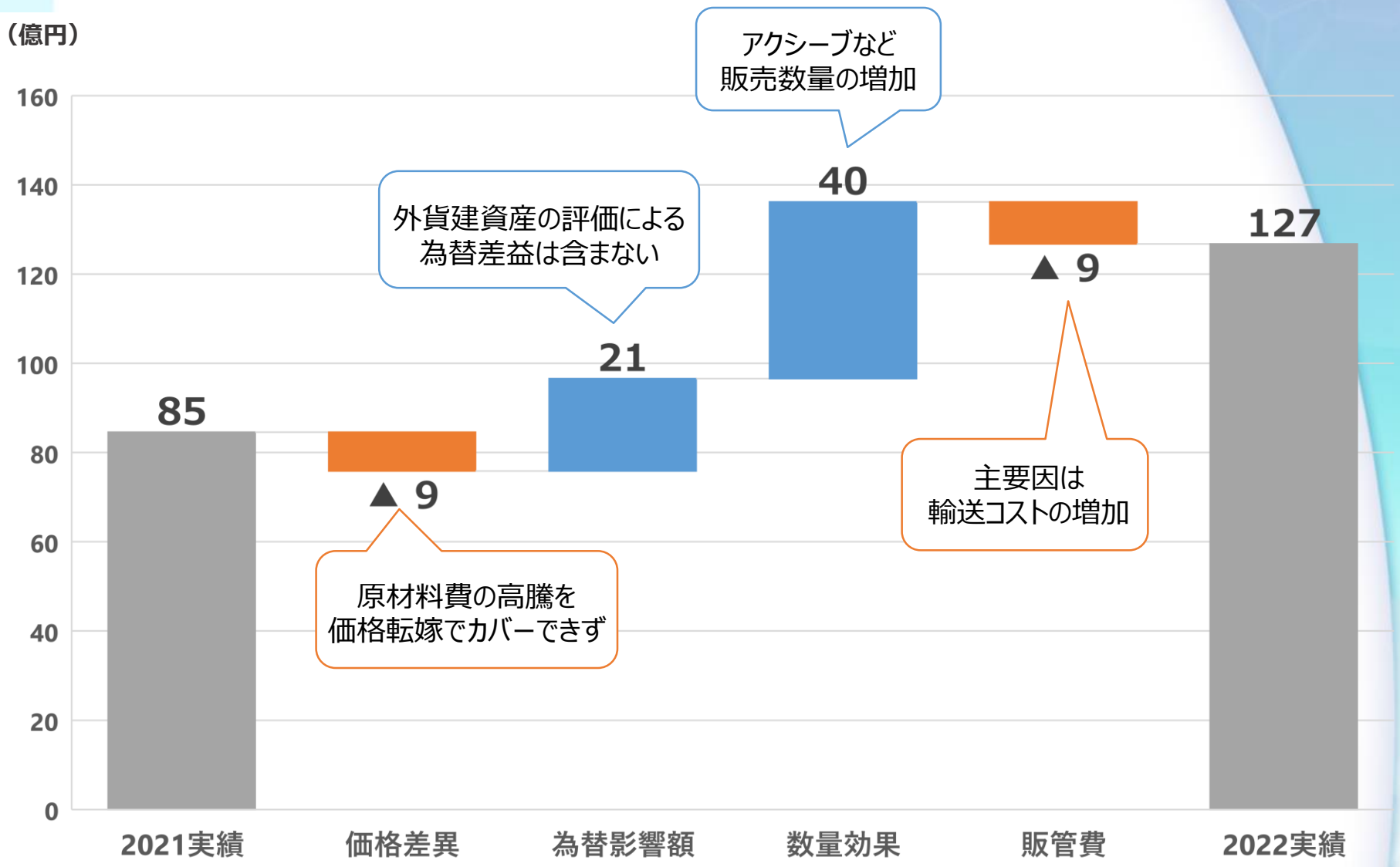


連結営業利益



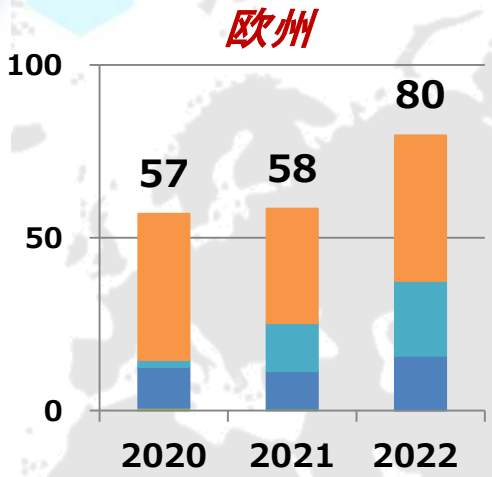
	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	＋233億円	+47億円
化成品	＋43億円	+0億円
その他	－5億円	－2億円

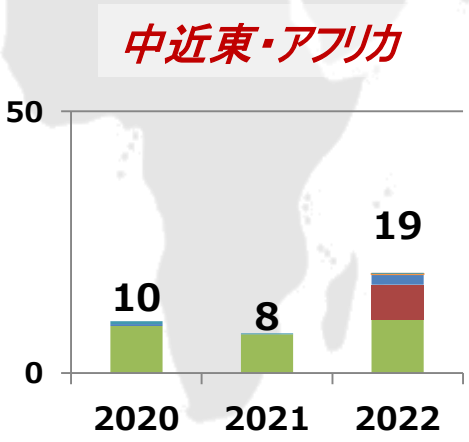
営業利益増減の要因分析

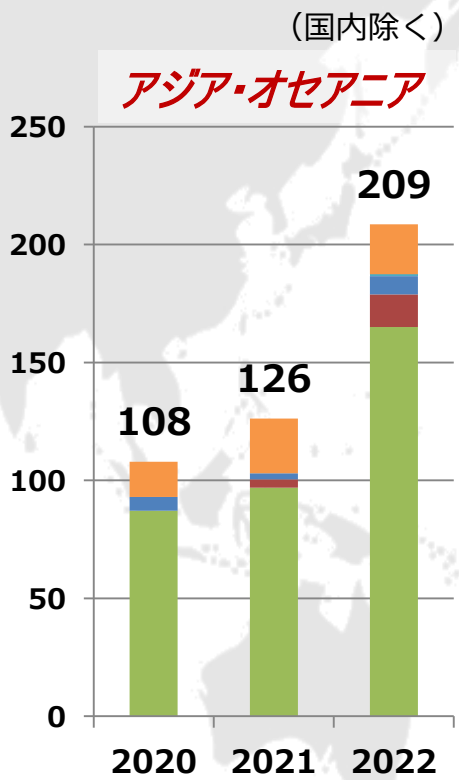


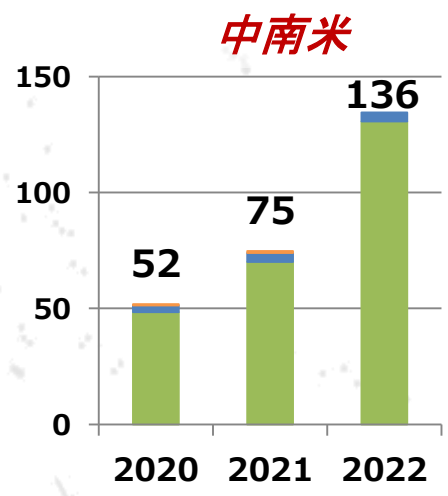
海外地域別・用途別売上高（農薬及び農業関連）

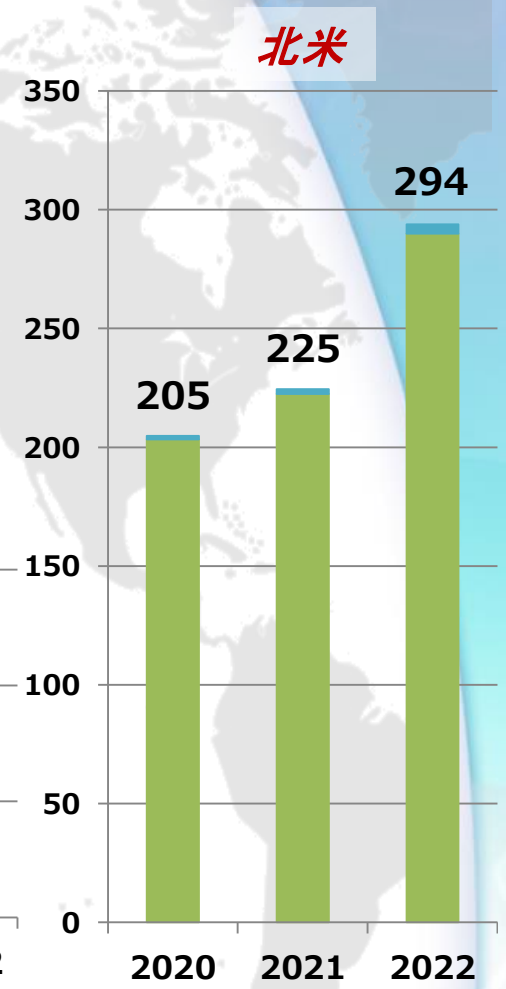
（億円）









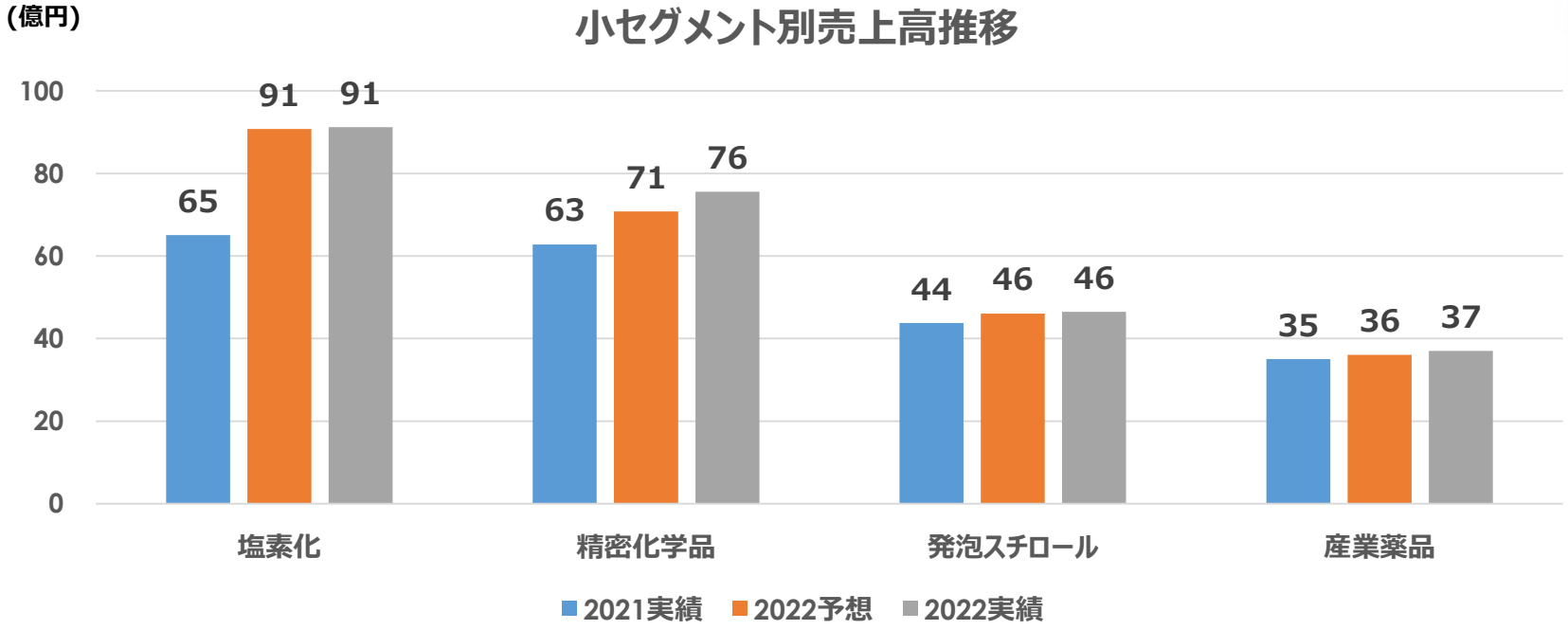


除草剤　殺虫剤　殺菌剤　植物調整剤　その他

売上高	1,124億円
海外売上高	737億円
海外売上比率	65.5%

小セグメント別売上高（化成品事業）

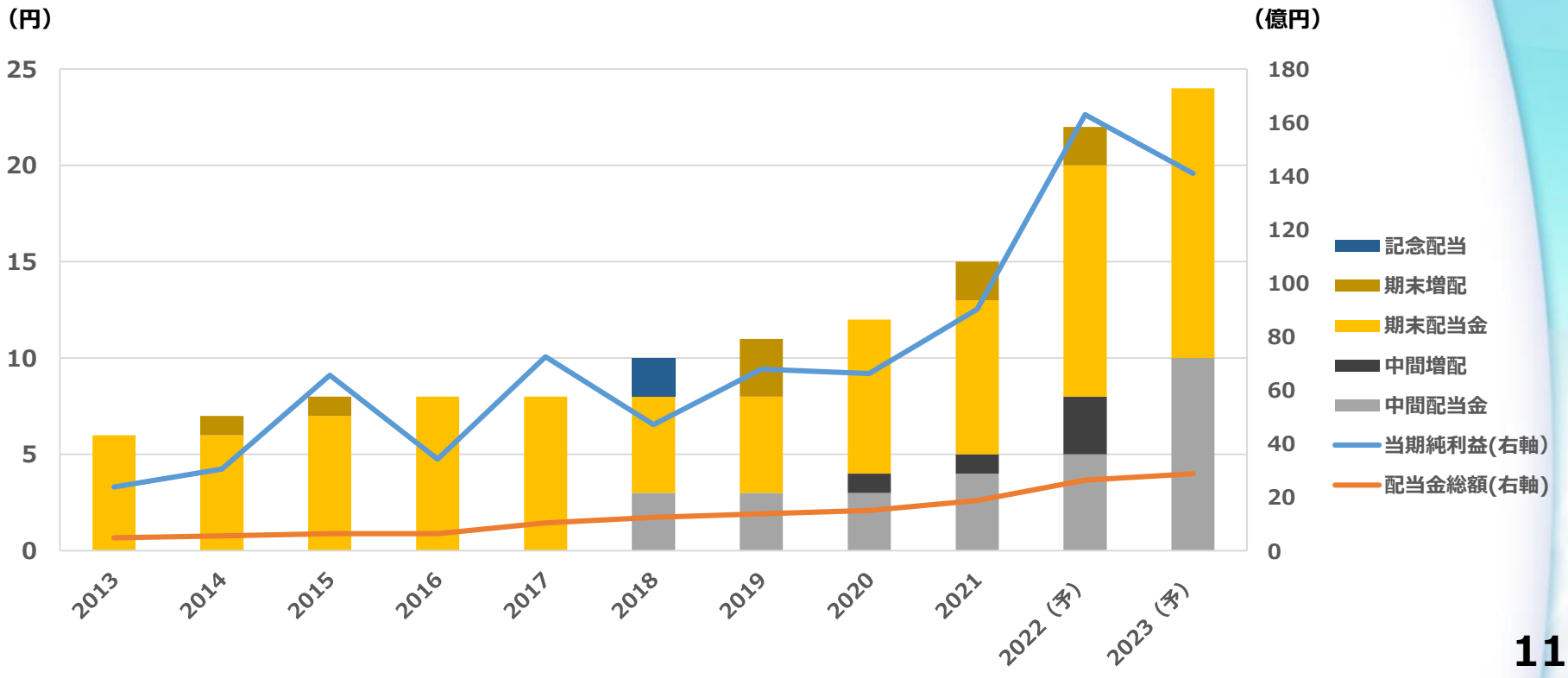
売上高	207億円（2021）→ 250億円（2022） +43億円
塩素化事業	✓アラミド繊維原料を中心にコロナ禍影響から本格的に回復 ✓その他品目がスポットで出荷増
精密化学品事業	✓半導体需要の高まりによりビスマレイミド類が好調に推移



株主還元施策

配当基本方針
収益動向を踏まえた株主の皆様への還元及び企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保などを総合的に判断しつつ、安定した配当を継続して行う

- ✓中間配当は従来予想に対して3円増配となる8円を実施
- ✓期末配当は従来予想に対して2円増配となる14円を予定
- ✓年間配当は前年比7円増配となる22円を予定



Ⅰ．事業環境

Ⅱ．2022年10月期 実績

Ⅲ．2023年10月期 業績予想

Ⅳ．重点施策の実施状況

Ⅴ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅵ．質疑応答

2023年10月期 連結業績予想

（億円）	2022 実績	2023 予想	増減	増減要因
売上高	**1,453**	**1,679**	**+226**	**－**
農薬及び農業関連	*1,124*	***1,345***	*+221*	**(+)海外：アクシーブ大幅増収 (+)国内：エフィーダ、ディザルタ増収**
化成品	*250*	***245***	*△5*	**(－)塩素化事業の主力品目以外の生産調整による減**
営業利益	**127**	**145**	**+18**	**(+)数量効果 (－)原油・ナフサ価格の上昇等による製造費用の増加**
経常利益	**236**	**193**	**△43**	**(－)前期は為替差益を計上**
当期純利益*	**163**	**141**	**△22**	**－**

(参考レート)　2022年度実績：¥/ドル=129.0、¥/ユーロ=135.3
2023年度予想：¥/ドル=135.0、¥/ユーロ=142.0

***親会社株主に帰属する当期純利益**

2023年10月期 営業利益計画

連結営業利益

2022年 **127億円** → ＋18億円 → 2023年 **145億円**

＋ アクシーブ販売数量増

円安の後押しもあるものの、販売数量の大幅増により増益
➡ジェネリック品の市場参入や流通在庫の状況等、リスク要因の把握と対策を強化

－ 製造原価の増加

原油・ナフサ価格の高止まりや円安により、原材料費や製造コストが増加

－ 販管費の増加

新研究所への移転費用 約5億円を計上
輸送費はピークアウトしたものの、依然高い水準で推移すると見ている
➡販管費率としては抑制傾向

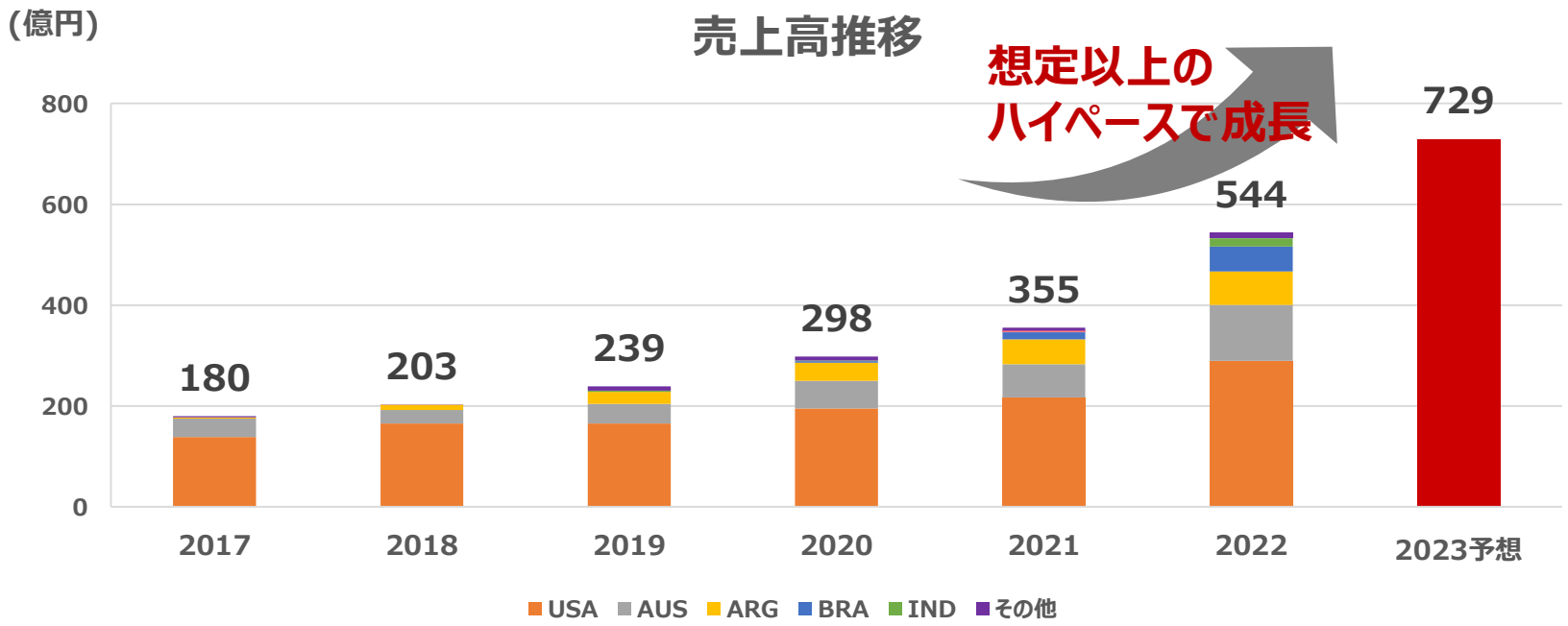
製造費用・販管費の増加をアクシーブの販売数量増加が吸収
コスト削減を徹底し、利益率向上に努める

2023年10月期 農薬及び農業関連事業

アクシーブ（畑作用除草剤）

✓有効性の高さが浸透し、生産現場では“なくてはならない剤”として位置付け
✓穀物価格の高騰により農家の購買力向上
✓競合剤が供給不足となる中、安定的な生産・供給が実現できている

➡ジェネリック品の市場参入、原材料費の高騰、流通在庫の動向を注視しつつ成長維持のためプロアクティブな対策を推進



2023年10月期 農薬及び農業関連事業

エフィーダ（水稲用除草剤）　前年比＋11億円

✓順調な成長による大幅増収
水稲一発処理剤シェアNo.1を維持

✓新規混合剤の継続的な開発による成長の推進
自社開発原体を複数含有する新規混合剤2剤の国内販売を開始

✓海外での開発を推進
販売開始済みの韓国に加え、欧州にてコムギ・水稲用除草剤としての開発を推進

ディザルタ（水稲用殺菌剤）　前年比＋6億円

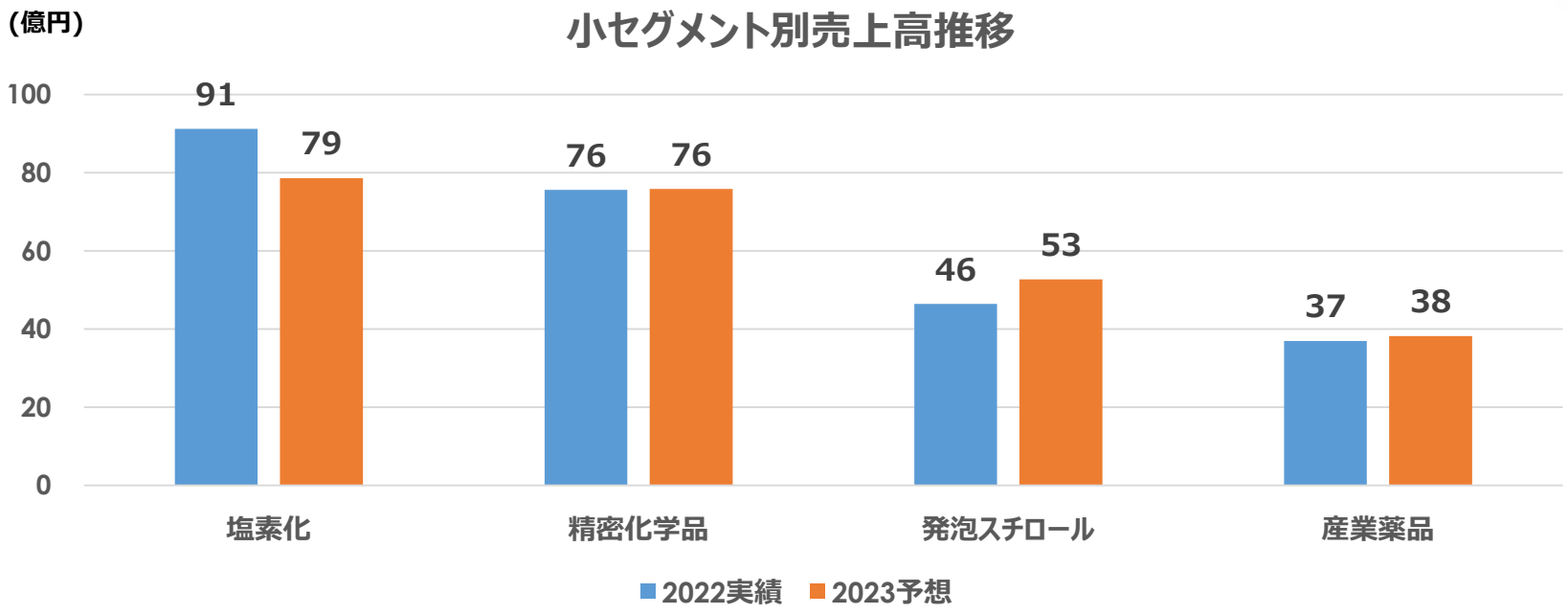
✓順調な成長によるシェアの拡大

✓新規混合剤の継続的な開発による成長の推進

✓海外での開発を推進
2022年から韓国向け出荷を開始済み

2023年10月期 化成品事業

化成品事業 250億円（2022）→ 245億円（2023） -5億円	
塩素化事業	✓アラミド繊維原料の需要は堅調 ✓その他品目は生産調整による減
精密化学品事業	✓半導体需要の取り込み



Ⅰ．事業環境

Ⅱ．2022年10月期 実績

Ⅲ．2023年10月期 業績予想

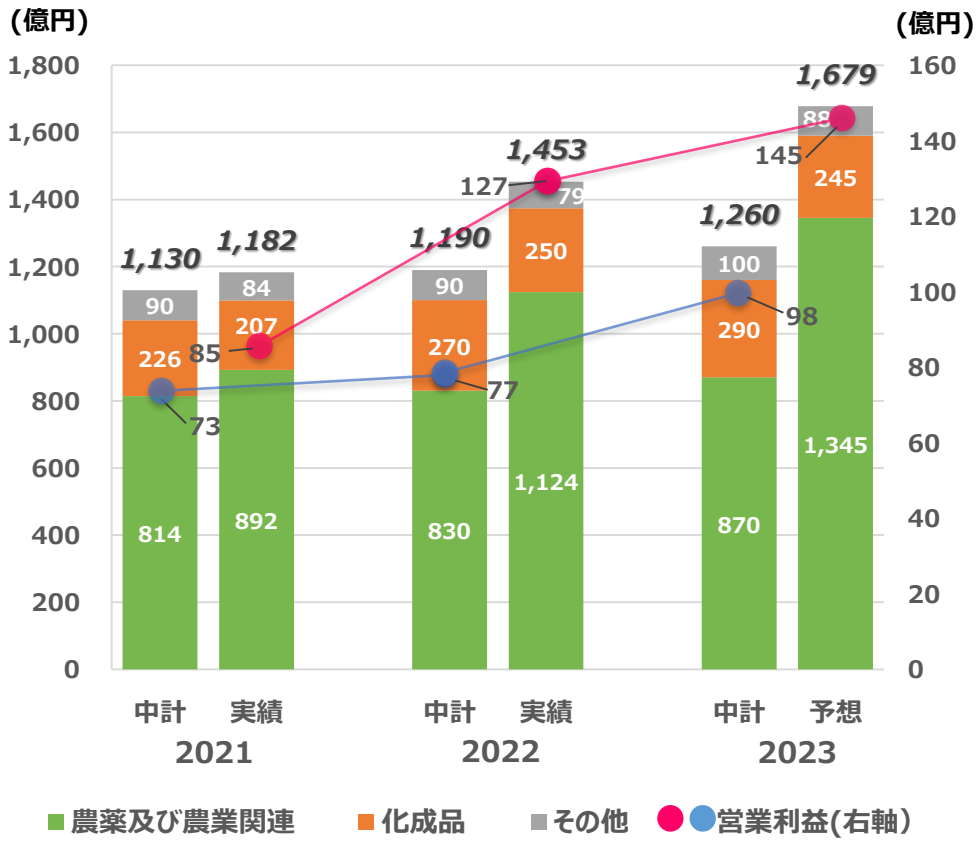
Ⅳ．重点施策の実施状況

Ⅴ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅵ．質疑応答

中期経営計画における業績推移

売上利益ともに2022年度に中期経営計画3年目の数値目標を達成



事業全体 ⬆

（＋）対ドル円安進行
（－）原材料費、製造コスト上昇

農薬及び農業関連事業 ⬆

（＋）穀物価格の高騰、作付面積増に伴う
アクシーブ需要増
（＋）エフィーダ、ディザルタ 成長上振れ

化成品事業 ⬇

（＋）塩素化事業、精密化学品事業 需要増
（－）コロナ禍影響の長期化による進捗遅れ

現中期経営計画の最も重要なポイントは
100年企業としての「あるべき姿」の実現のために
重要方針・重点施策を確実に実行し
サステナビリティ経営の基盤強化を図ること

⇩

数値目標のローリングはせず
重要方針、重点施策への取り組みに注力する

次期中期経営計画（2024～2026年度）は2023年12月中旬頃に発表予定

重要方針・重点施策

重要方針	重点施策
研究領域、事業領域の拡大	革新的な技術開発による研究領域の拡大 新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大 成長戦略の推進による既存事業の拡大
販売ルートの多様性確保	海外での販売ルートの多様化 新規アイテム・受託テーマの創出による新規販売チャネルの開拓
コスト競争力の確保	製品原価低減に向けた生産体制、調達の最適化 生産技術の改善、生産プロセスの自動化による生産性・品質向上とコスト削減
ESGを重視した企業活動	環境負荷の低減を図った製品の開発、生産体制の構築 会社情報の積極的な発信 グループコンプライアンス体制の強化と推進 内部統制システムの的確な整備、運用 社会全般への農薬の必要性・安全性に関する啓発活動の立案と実践

青：全事業　緑：農薬及び農業関連　橙：化成品

主な取り組みについて

農薬及び農業関連事業	
既存事業の拡大	アクシーブ、エフィーダ、ディザルタの成長
研究領域・事業領域の拡大	フルペンチオフェノックス、エコアーク、 バイオスティミュラント、メタン発生抑制技術の開発、 アグリ・コア社の株式取得
販売ルートの多様性確保	AAI社※を活用した新規市場の開拓
化成品事業	
研究領域・事業領域の拡大	新素材開発研究室の設置
サステナビリティ経営への取り組み	
ESGを重視した企業活動	体制整備 マテリアリティの特定およびKPIの設定 その他社会貢献活動

※ Asiatic Agricultural Industries社

重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

アクシーブの物質特許が満了

✓オーストラリア・アルゼンチンではジェネリックの市場参入の動き

✓データ保護制度により、米国では2025年、ブラジルでは2030年までジェネリックは安価に市場参入できない

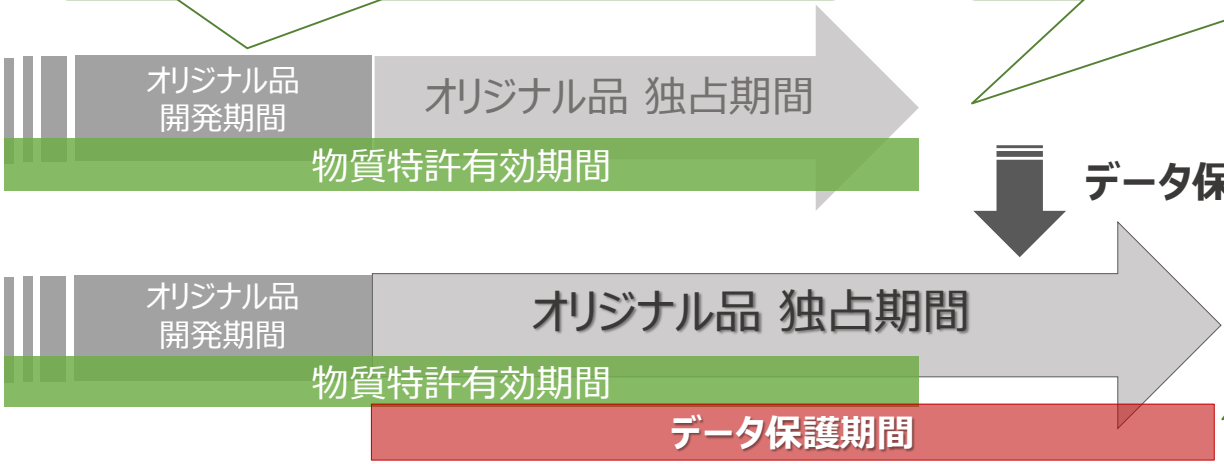
データ保護制度

✓オリジナル品の試験データが一定期間参照されないよう保護する制度

➡**実質的に、ジェネリック品の市場参入を遅らせることができる**

オリジナル品の登録申請では…
膨大な年数と費用をかけ試験を実施し
性能や安全性に関する試験データの提出が必要

ジェネリック品の登録申請では…
オリジナル品の試験データを**参照できる**ため
試験に係る期間とコストを削減できる



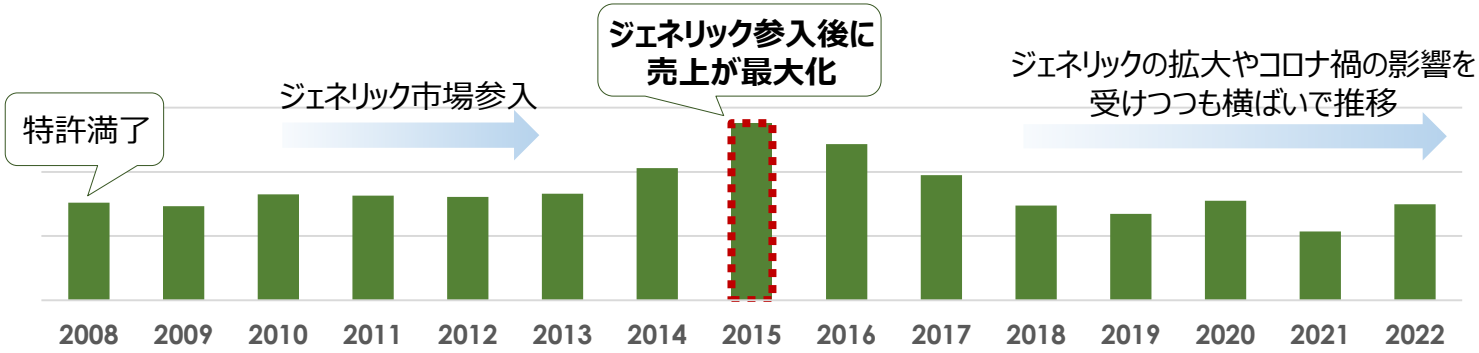
オリジナル品の試験データが
参照できないよう保護される

※データ保護制度の有無および期間は国によって異なる

重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

ジェネリック参入後の予測と対策

✓ジェネリックが市場参入しているノミニー（水稲用自社開発除草剤）の事例



➡アクシーブにおいても今後すぐにジェネリックにシェアを奪われることはないと予想

✓アクシーブでは…

適用作物が多い　ターゲットとなる市場が多く、今後も継続して開発・普及が期待できる

販社との協働　販社と協力して普及活動・混合剤開発に取り組んでいる
農業現場だけでなく販社にとってもなくてはならない剤になっている

知財対策　製造法特許・混合剤特許・中間体特許で複合的に権利を確保
少しでも特許侵害の可能性があるジェネリック品や違法品に対しては毅然とした態度で対応し、アクシーブの権利確保に努める

➡ジェネリック対策を強化するとともに、今後も継続してさらなる売上拡大を図る

重点施策の実施状況（研究領域・事業領域の拡大）

新剤の開発

- ✓ 新規殺ダニ剤フルペンチオフェノックスの開発
  新規作用性のダニ剤として開発中
  2023年度登録申請予定
- ✓ 新規微生物農薬「エコアーク（ARK-1）」の開発
  難防除病害であるブドウ根頭がん腫病に効果を示す世界で唯一の農薬として開発中
  2022年12月に登録申請済み

新技術の開発

- ✓ 微生物を活用したバイオスティミュラントの開発
- ✓ 農地から発生するメタンガスの発生抑制技術（国際特許出願済み）
  メタン生成阻害剤を発見　→実用化に向けた検討を推進中

重点施策の実施状況（研究領域・事業領域の拡大）

アグリ・コア社の株式取得

✓2022年10月にアグリ・コア社の株式80%を取得

アグリ・コア社の特徴

微生物とITを駆使した新たな農業の提案

・微生物を利用した培養土や特殊肥料の開発
・微生物資材等を使った栽培技術
・バイオガス発電における消化液循環システムの開発

Agricore

期待できるシナジー

両社の知見とノウハウを生かした協働

・施設園芸分野における微生物の活用
・特殊肥料のバイオスティミュラントとしての利用
・微生物配合培養土の販売
・施設園芸分野でのICT技術の活用

➡より環境負荷を低減し、持続可能な農業に貢献したい
という共通の目的に向け協働し、大きなシナジー発揮を目指す

重点施策の実施状況（販売ルートの多様性確保）

AAI社*の連結子会社化による効果

✓2021年2月にシンガポールに拠点を有するAAI社の株式60%を取得
✓同社はアジア・アフリカ地域で農薬・公衆衛生向け害虫駆除剤などを販売

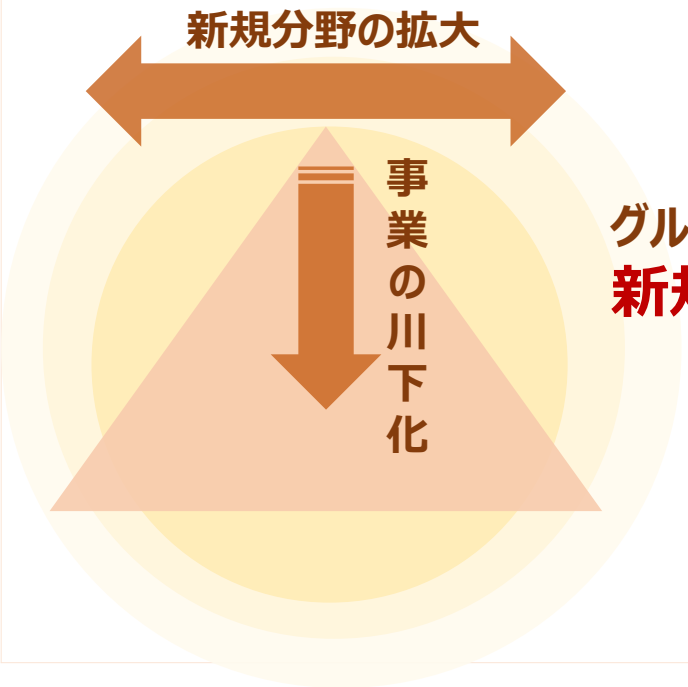
➡アジア・アフリカ地域での新規市場開拓を進めるべく
AAI社と協力して開発を推進中

*Asiatic Agricultural Industries社

重点施策の実施状況（研究領域・事業領域の拡大）

新素材開発研究室の設置

✓化学研究所プロセス化学研究センターに新素材開発研究室を設置
✓クミアイ化学だけでなく、グループ会社からも横断的に人員を配置
✓各社が持つ知見やノウハウ、技術を活かした共創的な取り組みを進める



グループ間での連携、外部機関との協働を深化させ
新規分野の開拓および**事業の川下化**を図る

➡化成品事業を第2の柱へ

重点施策の実施状況（研究領域、事業領域の拡大）

自然に学び 自然を守る
クミカ

新化学研究所建設

- ✓3研究センター統合による研究開発の効率化
- ✓異分野研究施設の統合によるイノベーション創出の促進
- ✓新規事業の創出に向けた新技術開発

所在地	静岡市清水区
総投資額	70億円（予定）
着工	2021年12月
竣工	2023年4月

（名称）

Shimizu Innovation Park

（ShIP）

当社の最大の強みである研究開発力を強化し
新規な有用化合物の開発スピードをさらに高めていく

みどりの食料システム戦略への取り組み

自然に学び 自然を守る
クミカ

みどりの食料システム戦略（以下みどり戦略）で2050年までに目指す姿（抜粋）	クミカ 中期経営計画（2021～2023）20～30年後のクミアイ化学の「あるべき姿」
✓農林水産業のＣＯ２ゼロエミッション化の実現 ✓化学農薬の使用量をリスク換算で50%低減 ✓耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%、100万haに拡大	食の安定供給を支える農業に貢献し 革新的な技術と独自の事業領域を確立した 最先端の化学メーカー

「あるべき姿」の実現化のための事業戦略には
環境保護やエネルギー問題等を含むみどり戦略に示された姿が既に盛り込まれている

より安全で効果が高く環境負荷が低い
化学農薬の開発

環境負荷低減・IPM*への取り組み
*総合的病害虫・雑草管理

クミアイ化学としての取り組み

「食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立」に資する革新的な技術の確立

ドローンと豆つぶ剤を活用した
スマート農業への参画

微生物農薬、バイオスティミュラント
メタンガス抑制技術など**新技術**の開発

Ⅰ．事業環境

Ⅱ．2022年10月期 実績

Ⅲ．2023年10月期 業績予想

Ⅳ．重点施策の実施状況

Ⅴ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅵ．質疑応答

2022年度のサステナビリティ経営への取り組み

サステナビリティ経営の基盤強化	
2021年11月	サステナビリティ基本方針の制定
	サステナビリティ推進委員会の設置
2022年　5月	サステナビリティ推進室をサステナビリティ推進部へと組織強化
	サステナビリティ推進部にレスポンシブル・ケア推進課を設置

✓2022年度は一年をかけて、今後サステナビリティ経営を強力に推進していくための組織体制や会議体を整備

➡グループ会社を含め、全社的にサステナビリティ経営への取り組みを加速させ、持続可能な社会の実現への貢献を目指すとともに、企業価値の向上を図る

マテリアリティ（重要課題）の特定

20～30年後のあるべき姿

クミアイ化学グループ

独自技術で豊かなくらしを支え
自然と調和した社会の持続的発展に貢献する
フレキシブルで存在感のある企業グループ

クミアイ化学

食の安定供給を支える農業に貢献し
革新的な技術と独自の事業領域を確立した
最先端の化学メーカー

マテリアリティ（重要課題）の特定

■本業を通じた社会課題の解決　■環境　■社会　■ガバナンス

ステークホルダーにとっての重要度 ↓ / 当社にとっての重要度 →	重要	非常に重要
非常に重要	地域社会への貢献	■ 循環型社会への貢献 ■ 化学物質管理の強化 ■ 労働安全衛生の推進 ■ 人権の尊重 ■ サプライチェーンマネジメントの高度化	■ 世界の食料安全保障への貢献 ■ 持続可能な農業への貢献 ■ 生活の質向上への貢献 ■ 気候変動・環境負荷の低減 ■ 生物多様性への貢献
	自然災害への対応	■ 知財・無形資産の戦略的活用 ■ 農業・作物保護に関する正確な情報発信 ■ 人財の育成 ■ ワークライフバランスの推進 ■ ダイバーシティ＆インクルージョンの推進	■ 研究開発力の強化 ■ 品質向上と製品安全の確保 ■ 顧客満足の実現 ■ 海外事業の拡大
		適正な情報管理の推進 DX化の推進	事業領域の拡大と新規事業の推進

企業経営の基盤	
	■コーポレートガバナンスの高度化　■コンプライアンスの推進 ■リスクマネジメントの強化　■ステークホルダーとの対話

マテリアリティの特定

マテリアリティ	2030年度目標
気候変動・環境負荷の低減	グループ7社の温室効果ガス排出量（スコープ１・２）：2019年度比30%減
持続可能な農業への貢献	スマート農業へ貢献する製品:豆つぶ剤の拡大 豆つぶ剤が使用された農地面積：全国水稲栽培面積比2%増（2022年度比）
循環型社会への貢献	廃棄物の削減 廃棄物ゼロエミッションの推進：埋立処分率１%以下
労働安全衛生の推進	休業災害件数:0件
研究開発力の強化	特許出願件数：120件（国内40件、海外80件）
ワークライフバランスの推進	平均年次有給休暇取得率：80%
人財の育成	１人当たりの研修時間：12時間
ダイバーシティ＆インクルージョンの推進	女性管理職の割合：7.2% 男性の育児休業取得率：75%

✓当社グループはTCFDの提言に賛同しており、TCFD提言を踏まえた情報開示を実施

✓事業戦略、将来ビジョン、マテリアリティ等を掲載した統合報告書は2023年4月に発行予定

その他の活動

福島町森林組合および北海道福島町との
包括連携協定締結

里地・里山再生プロジェクト
（栃木県那須烏山市）

当社コーポレートサイト刷新

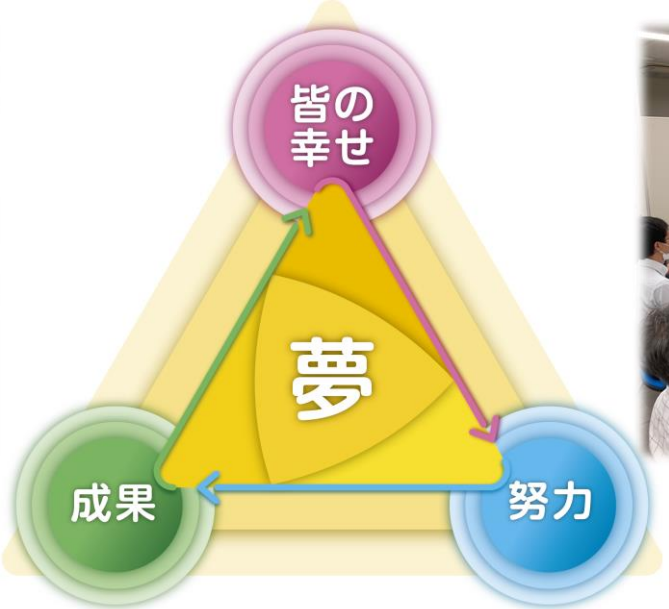
農業と農薬の啓発活動
（ファーマーズ＆キッズフェスタ@日比谷公園）

新体制での活動

「夢」と「幸せの三角形」

- ✓従業員一人ひとりが「夢」に向かって「努力」し、その「成果」によって達成感・充実感を感じて「幸せ」になり、さらにその拡大を目指していく
- ✓会社としては、経済価値・社会価値を両立した「成果」を目指し、その先にある、すべてのステークホルダーの「幸せ」を追求
- ✓「『夢』と『幸せの三角形』」を個人から地球規模にまで拡大していくことがクミアイ化学グループのサステナビリティ経営

社長室前に飾られた
社員が書いた絵馬



会長・社長が全事業所を訪問し
社員との交流を実施

ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る

クミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部　経営企画部　企画課
TEL: 03-3822-5036
FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください　http://ir.kumiai-chem.co.jp/